

防災とジェンダー

～多様な人の声を届けるために～

日本は大きな災害に繰り返し見舞われる災害大国であるといえます。

東日本大震災から15年、熊本地震から10年、能登半島地震から2年、そして3年前には久留米市も洪水と土石流により甚大な被害を受けました。これらの厳しい経験を基に浮かびあがってきた大きな課題が、女性や子ども、障害者や高齢者、外国人など社会的に弱い立場の人たちのニーズにどう応えるかです。とくに避難所の運営に当たっては、日頃の「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識がさまざまな課題を生み出しています。平時から課題の背景にある問題に目を向け、きめ細かな防災ができるように準備するため、皆で考えましょう。



大分県生まれ。2012年朝日新聞入社。神奈川県や富山県で勤務後、くらし報道部で「防災とジェンダー」を中心に、人権や子ども、食などの分野を取材。現在は文化部所属。

●日時： 2026年7月18日(土曜日) 13:30～15:30

●会場： 久留米市男女平等推進センター210・211 研修室

久留米市諏訪野町 1830-6 えーるピア久留米内

●講師： おおつぼ 大坪 みかこ 実佳子さん 朝日新聞文化部記者

●定員： 70名 申し込みはこちらのQRコードでもできます。



申し込み・問い合わせ先：TEL 090-7457-7122 fax 0942-47-0093 (今村)

●手話通訳・一時保育あり / 申し込みは 2026年7月10日(金)まで

●主催：久留米男女平等推進ネットワーク